

文化・芸術

ルース像

1932年ころ、水彩・紙
30・4寸×23・5寸

野田英夫 (1908～39年)

野田英夫は、米国カリフォルニア州で日系移民の子として生まれました。3歳の時に日本での教育を受けるため、郷里熊本の親戚のもとに預けられました。18歳でふたたび単身渡米します。野田は、大都会に生きる庶民の生活に目を向けたアメリカンシートの画家たちとともに活動を始め、20歳代半ばには画家として認められるようになります。

1932年、2歳年下の米国人女性ルースと出会い間もなく結婚します。本作はそのころに描かれた一点です。金髪をゆるく束ねた妻ルースが、頬に片手を添え、書物をめくっています。と、なにか思いついたのでしょうか、ふと顔をあげた知的なまなざしに彼女の思慮深さがとらえられています。

米国と日本という両国籍をもった野田にとって、ルースの存在は精神的なよりどころでもあったことでしょう。若いふたりの明るくみずみずしい一瞬がとどめられています。(小此木)

〈名画の扉〉

大川美術館企画展から

